

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

2023年 3月 10日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 171-0022

所在地 東京都豊島区南池袋2-49-7池袋パークビル1F

評価機関名 パブリックサービスR&C合同会社

認証評価機関番号

機構 09 - 190

電話番号 03-4570-8659

代表者氏名 代表社員 臼井 淳



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	臼井 淳	経営	H0405013
	②	萩原 康子	福祉	H1801071
	③	平沢 早苗	福祉	H1601012
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	キッズルームこっこ保育園			
事業所連絡先	〒	183-0015		
	所在地	東京都府中市清水が丘3丁目21番地25 正田メディカルビル		
	TEL	042-365-5466		
事業所代表者氏名	園長 石見 智子			
契約日	2022年 3月 31日			
利用者調査票配付日(実施日)	2022年 4月 5日			
利用者調査結果報告日	2022年 9月 3日			
自己評価の調査票配付日	2022年 6月 27日			
自己評価結果報告日	2022年 9月 3日			
訪問調査日	2022年 9月 9日			
評価合議日	2022年 10月 8日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	第三者評価の実施にあたり、当機関における評価の進め方やスケジュールについて園と事前打ち合わせを行い、経営層及び職員に対して自己評価方法の説明を行いました。利用者調査は、入園している子どもの保護者全世帯を対象としたアンケート調査を実施しました。事業評価は、経営層及び職員個別の自己評価結果並びに利用者調査結果を分析した上で、評価者間で調査時の着眼点を共有し、訪問調査に臨みました。訪問調査では、園長や関係職員に対するヒアリングと書類の確認を行いました。訪問調査後、評価者間の合議により評価結果をまとめました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2023年 2月 28日

事業者代表者氏名

理事長 正田 達夫



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 個人を尊重すること 2) 少人数の環境の中、心身ともに安定した成長をすること 3) 主体性を重視し、達成感を感じる経験をする 4) 保護者と信頼関係を気づき同じ高和の目線で子どもの成長を見守り・成長をともに喜ぶことができること 5) 感染症対策を講じ、保護者の不安を軽減し保育園としての機能を日々発揮すること
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p><人材像></p> <ol style="list-style-type: none"> ①何事もポジティブに考えることができる人 ②進んで技術を習得し保育に活かす意欲のある人 ③子どもの主体性を重視する人 ④子どもと同じ目線で生活が楽しめる人 ⑤保護者の思いを受け止めることができる人 ⑥職員間で連携を積極的にとることができる人 ⑤思いやりがある人
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①子どもの今を大切に、子どもたちが大人になったとき、個性や可能性を十分発揮できる子どもの心の根っこを育てているという意識を持つ。 ②「子どもたちが大人の思い通りにならないくて当然である」と認識し、自分のキャパシティの範囲を超える子どもたちの成長を見守りつつ、子どもとともに育っていることを認識する。

調査対象

令和4年4月現在、キッズルームこっこ保育園に在籍している子ども60名の保護者全世帯(52世帯)を対象として実施しました。

調査方法

アンケート方式。評価機関から保育園に対し、本調査についてのお知らせの園内掲示と、個別のID・パスワード(保護者を特定しない形式)を記載した調査案内の配付を依頼して実施しました。保護者には当評価機関専用のWebアンケートサイトから回答を入力してもらいました。

利用者総数

60

利用者家族総数(世帯)

52

共通評価項目による調査対象者数

52

共通評価項目による調査の有効回答者数

16

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

30.8

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は、「大変満足」が50.0%(8名)、「満足」が37.5%(6名)と、回答した保護者の87.5%が満足しているという高い評価が得られています。その他は、「どちらともいえない」が12.5%(2名)でした。全17問の共通評価項目では、「はい」との肯定的な回答割合80%超が12問となっており、最も高かったのは「1.園での活動は、子どもの心身の発達に役立っている」と「2.園での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるものになっている」の100%(16名)でした。総合的な意見でも、「子どものことと共に親の心身面も気遣い励まして下さり、心から感謝しています。子どもの成長に必要な助けや心身面で心配なことも教えて下さるのでありがたいです」、「初めは一人で絵本を読んでばかりだった子どもが、お友達と関われるよう先生方も協力して下さい、ケンカやガマンすることが増え、自分なりに切り替えもできるようになってきました」、「小規模なのでクラスを越えて交流があり、良い刺激になっています」との好意的なコメントが寄せられています。また、コロナ禍での迅速な情報提供や職員とのコミュニケーションの充実を求める意見等もみられました。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	16	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「特にお友達との関わり方に大きく役立っていたと思います」とのコメントが寄せられていました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	16	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「作ってきた工作や、イベントは楽しそうに教えてくれます」とのコメントが寄せられていました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	14	2	0	0
回答割合は、「はい」が87.5%、「どちらともいえない」が12.5%となっています。 自由記述には、「5歳児には少し少ないようです。(帰宅しても「足りない」とよく言うので…)」、「お菓子系のメニューが多いように思います。おやつでも、例えば小魚チップスとか？ザ・昭和！というものがあれば良いと思います」とのコメントが寄せられていました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	14	0	2	0
回答割合は、「はい」が87.5%、「いいえ」が12.5%となっています。 自由記述には、「コロナでできないことも多い中、できる限りのことをやって下さっていると思います」、「戸外時間は少ないと感じます。社会と関わる機会は、コロナ禍で仕方ありませんが、ほぼゼロだったと思います」とのコメントが寄せられていました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	15	0	0	1
回答割合は、「はい」が93.8%となっています。 自由記述には、「変更することがなかったので分かりません」とのコメントが寄せられていました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	12	3	0	1
回答割合は、「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が18.8%となっています。 自由記述には、「お迎え時、インターホンや窓越しに確認後ドアが開くのは良いと思いました!」、「子どもが2人で手をつないでお散歩するのは安全なのか疑問です。相手の子にひっぱられて転倒したことが何回もあった様子」とのコメントが寄せられていました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	13	1	1	1
回答割合は、「はい」が81.3%、「どちらともいえない」が6.3%、「いいえ」が6.3%となっています。 自由記述には、「親が参加する行事は土曜がほとんどで配慮されていると思います」、「子どもだけの行事でも、皆がそろうことはなかったような…」とのコメントが寄せられていました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	13	3	0	0
回答割合は、「はい」が81.3%、「どちらともいえない」が18.8%となっています。 自由記述には、「少しでも心配なことは連絡帳や口頭で相談しやすかったです」、「先生と話す機会がありません」とのコメントが寄せられていました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	14	2	0	0
回答割合は、「はい」が87.5%、「どちらともいえない」が12.5%となっています。 自由記述には、「コロナのため園内(特に保育の部屋)は入れないため」、「室内を見たことがありません」とのコメントが寄せられていました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	15	1	0	0
回答割合は、「はい」が93.8%、「どちらともいえない」が6.3%となっています。 自由記述には、「皆さん問題ないです」とのコメントが寄せられていました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	15	1	0	0
回答割合は、「はい」が93.8%、「どちらともいえない」が6.3%となっています。 自由記述には、「お迎え時に必ず報告がありますし、連絡も下さるので安心できます」とのコメントが寄せられていました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	7	7	0	2
回答割合は、「はい」が43.8%、「どちらともいえない」が43.8%となっています。 自由記述には、「子どもも交えて話し合いを設けて話をきちんとしてくれ、親にも相手のことは伏せていますが、報告があります」、「子どもの特性について、先生と話す機会がもっとあれば良いと思います」とのコメントが寄せられていました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	13	3	0	0
回答割合は、「はい」が81.3%、「どちらともいえない」が18.8%となっています。 自由記述には、「職員によっては、子どもが訴えたことを聞き流したり、反応しないことがあります。パートの方であっても子どもからすれば先生であることを自覚してほしいです」とのコメントが寄せられていました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	12	2	0	2
回答割合は、「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が12.5%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	12	3	1	0
回答割合は、「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が18.8%、「いいえ」が6.3%となっています。 自由記述には、「日中何をしているのかよく分かりません」とのコメントが寄せられていました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	13	2	1	0
回答割合は、「はい」が81.3%、「どちらともいえない」が12.5%、「いいえ」が6.3%となっています。 自由記述には、「連絡帳に書くと、その日のお迎え時には回答をくださいます」とのコメントが寄せられていました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	8	2	2	4
回答割合は、「はい」が50.0%、「どちらともいえない」が12.5%、「いいえ」が12.5%となっています。 自由記述には、「そういう機会もなく、困ったこともないので」とのコメントが寄せられていました。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	個々の子どもの発達に応じた支援や、達成感を大切にされた保育の姿勢を明示しています 「乳幼児の最善の利益を基本に保育を進める」の保育理念のもと、「個々の発達に応じた生活力を身につけること・少人数での保育環境により心身ともに安定し成長すること・『できた』の気持ち(達成感)を感じることを目標に掲げ、リーフレットや保育のしおり、重要事項説明書で周知しています。障がいを持つ子を含め、あらゆる子どもたちを「個々」に支援する姿勢は、当園の「こっこ」の名称の由来ともなっています。園長は、職員会議や入園説明会(動画配信等)を通して考え方を説明し、職員や保護者に園の姿勢が理解されるよう取り組んでいます。	
	園長は、組織全体を牽引し、現場の把握や保護者との信頼関係の構築に努めています 経営層である園長と、主任、6人のリーダーが園運営の中核を担っており、キャリアパスを定め、職務・係の分担表等を作成して各業務の担当者を明確にしています。園長は、中・長期計画の実行など組織全体を牽引し、保育面は主任やリーダーに任せつつ、最終責任は自身にあることを伝え、保護者への声かけや連絡帳の確認、保育会議への出席を通じて現場の把握と信頼関係の構築に努めています。正職員の多くがリーダー職にあり、園長以下は比較的フラットな組織としていますが、リーダー職・指導職内の職位に応じた権限や責任の明確化も必要と思われる。	
	重要な案件は職員会議や保育会議を中心に検討・決定し、職員全体に周知しています 園の運営や業務に関する案件は、月1回、昼に行う職員会議を中心に検討し決定しています。会議では、事前に議題資料や行事企画案を配付したり議事録も作成して回覧するなど、効率的な運営を図っています。非常勤(有期)職員会議も月1回開催し、正職員間で決定した内容や経緯、今後の進め方等を丁寧に説明する場としています。個々の子どもの支援や保育内容については、毎月、乳児・幼児会議で情報共有と検討を行った後に保育会議で取り上げ、全体に報告・周知しています。保護者には、月1回発行の園通信や一斉メール等で重要な情報を伝えています。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
◎あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◎あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
◎あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
◎あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(0●)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
○あり ◎なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>保護者や職員、地域のニーズを把握し、経営状況等も踏まえて課題を検討しています</p> <p>運営委員会や第三者評価の利用者調査結果を活用して保護者のニーズ把握に努めており、コロナ禍で運営委員会が開催できなかったときもアンケートを実施し、丁寧な回答を含めて結果を保護者に返しています。職員の意向は、毎朝のミーティングや園内の各会議を通じて把握し、地域の現状等は、市内の私立保育園園長会や地区社協の会合、地域の福祉まつり実行委員会への参画を通じて把握しています。定員の充足や事業補助費の状況、近年の家庭や乳幼児の発達傾向も踏まえて課題を検討し、他の事業展開も視野に入れた中・長期計画の策定につなげています。</p> <p>法人及び園の対応課題を抽出し、今後5年・10年で達成したいことを明確にしています</p> <p>収集・把握したニーズ等を踏まえて、法人及び園として対応すべき課題を抽出し、大きな課題については中・長期計画に盛り込み、方向性を職員全体で共有化しています。中・長期計画では、この10年間で達成したことを振り返り、今後5年で達成したいこととして、①子育て支援の内容の検討、②正規職員のリーダー研修への参加、スキルアップ、③ドキュメントスタイルの日誌の導入検討を打ち出しています。また、今後15年で達成したいこととして、より開かれた保育園としての活動や管理職側の世代交代の準備、園庭に変わる場所の確保等を挙げています。</p> <p>毎年度、中・長期計画や年間計画を示し、全職員に周知して取り組みを進めています</p> <p>毎年度、「保育事業内容」を作成し、基本理念や保育方針、地域の現状、中・長期計画、事務・業務や会議、係、行事の枠組みや取り組みの骨子、職員の心構え等をまとめています。これらは前年度末に、非常勤を含めた全職員が集まる職員会議において園長から説明・周知しています。保育活動や行事の予定は年間計画に実施時期・回数等を具体化し、年度末には事業報告に実績や総評をまとめていますが、さらに中・長期計画と年間計画を連動させ、数値目標や改善課題への取り組みのスケジュールを明示し、進捗状況を確認しながら推進することが期待されます。</p>		

3 経営における社会的責任		
カテゴリ-3		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
◎あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
◎あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
◎あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

守るべき法・規範・倫理等は、就業規則やマニュアルを通じて全職員に周知しています

入職時には雇用契約書と誓約書を取り交わし、就業規則と個人情報保護義務の遵守について誓約してもらうほか、ハラスメント防止の追加等による就業規則の改正があった際には都度、説明を行っています。入園のしおりや重要事項説明書に相談・苦情窓口を記載して入園説明会で伝え、苦情等があれば園長・主任が迅速に対応する仕組みとしています。市の虐待防止マニュアルにより禁止事項等を職員に周知し、気になる言動があれば園長を通じて指導しています。家庭等での虐待等の情報や疑いがあれば、関係機関との連携を含むフローに従い対応しています。

地域の親子を対象にした子育て支援事業を実施し、地区社協の活動にも協力しています

園の機能や専門性を地域に活かした取り組みとして、地域子育て支援事業「あおむしひろば」を平日は毎日、予約制で実施しています。園の1Fと3Fの専用スペースや近隣の公園を使用して、在宅子育て家庭が遊びに来られる広場や職員による子育て相談を実施しています。また、地区社協の立ち上げに関わり、活動に参加したり、活動のためのチラシやアンケートの印刷、フードパントリーや子ども食堂の周知等について協力を行っています。市民協働活動の一環として、地域の農家から植栽を預かり、園児たちと共に公園へ植え、世話をする活動も行っています。

地域に開かれた園となるよう、情報公開と外部の受け入れに積極的に取り組んでいます

園のホームページでは、日々の活動の様子をブログに掲載して知らせています。コロナ禍でも一定条件がクリアできればボランティア等を受け入れることも案内しており、保育実習生や職業体験の中学生、保育補助のボランティアを継続的に受け入れています。毎月の市内私立保育園園長会のほか、保育部会や看護部会、事務部会等の会合や研修にも職員が積極的に参加しており、福祉まつりの運営や子ども食堂への手伝いへ職員を派遣したり、農業団体から畑を借り入れるなど、地域との関係を維持しています。自治会との連携・協働の取り組みを模索しています。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>感染症対策に重きを置くとともに、様々なリスクを想定した安全対策を実施しています コロナ禍での感染リスク対策に重きを置き、感染症対策やパンデミック対応のマニュアルを作成・改訂し、発生や対応の状況を職員全体で共有するとともに、保護者にも毎月のほけんだよりを通じて最新の情報提供を行い、注意を喚起しています。園内各室に空気清浄機を設置し、換気や消毒も徹底しています。また、保育安全や事故防止等のマニュアル、事故・緊急時の対応フローも常に参照できるよう備え、乳幼児突然死症候群防止のチェック表の運用や呼吸チェック補助機器の導入、食物アレルギー除去食の誤配・誤食防止等の各種対策も実施しています。</p> <p>大規模災害対応計画を策定し、災害時に職員が適切に行動できるよう取り組んでいます 大規模災害対応計画を策定し、発生時間・場所に応じた職員の動きや、園内での生活の維持、帰宅困難者、復旧と再開等の対応、備蓄等についてまとめています。全職員に携帯用の行動マニュアルも配布しています。救急救命訓練の受講や、毎月の災害・不審者・火災の対応訓練も計画的に進めています。事故発生時は、「ヒヤリハット記録簿／事故報告書」に原因・問題点や改善策、保護者への対応、受診の有無等を記載して共有し、些細なけが・かみつきもカードに記録して、保護者への説明状況欄により当日のほか翌日にも経過確認ができるよう工夫しています。</p> <p>セキュリティを確保しつつ、必要な情報を全職員が活用できるよう整備・管理しています パソコンやタブレットは十分な台数を整え、講習により全職員の使用スキル向上を図った上で活用できるようにしています。一方、ネットワークへの接続は限定し、パスワード設定等によりセキュリティを確保しています。各種書類も工夫してファイリングしながら、必要な施設管理により持ち出しを制限しています。個人情報の利用目的や開示請求に関しては、関係規程に定め、第三者提供や園内掲示等について保護者の同意を得ていますが、実効性ある管理と法改正対応にあたり、他の利用目的や開示請求の窓口・対応方法についても明示することが望まれます。</p>		

5 職員と組織の能力向上		サブカテゴリ1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
◎あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
◎あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
◎あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
◎あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
◎あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
組織力の向上に取り組んでいる		3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
◎あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当

カテゴリー5の講評

人材育成や風通しの良い職場作りの観点も踏まえ、職員の採用・配置を行っています

就業規則や給与表を定め、毎年度の「保育事業内容」には職員への期待や心構えを記載しています。多様な媒体を通じて職員を募集し、書類選考や園長の面接を通じて、即戦力ではなく、ゆっくり当法人の考え方を身に付けてもらえる人材を採用しています。クラス配置は、正職員と非常勤職員の組み合わせや各自の経験・能力、希望を踏まえ、時間をかけて様々なクラスを経験できるよう考慮して決めています。また、人材育成と風通しの良い職場作りの観点から、地域子育て支援事業担当へのローテーション配置や系列の近隣小規模園2園への異動も行っています。

キャリアパスや個々の希望を基に、職員が研修を受講できるよう組織的に支援しています

入職時に研修を実施し、職種や勤務に応じた職務内容やキャリアパスを周知しています。正職員は年2回以上、非常勤は年1回以上の研修参加を必須とし、各自の「研修等目標」の希望を基に派遣しています。受講は勤務扱いとし、保育に活用できる資格取得も奨励して能力向上を支援しています。受講後は学んだこと等を報告書にまとめ、回覧や研修担当の確認により成果を共有し、1か月、3か月、6か月後に振り返りを行う仕組みとしています。キャリアパスや個人目標に沿った年間の行動の自己評価、園長面談を通じた評価の結果を給与等に反映しています。

職員の働きやすさに配慮した諸制度を導入しており、良好な就業状況を確保しています

働き方改革を進め、1か月単位の変形労働時間制を導入して柔軟な勤務を可能にし、介護や通院、育児等の事情でも休みが取りやすいようフリーの職員を多く配置しています。園児とゆとりある心で接するためにも、保育から完全に離れての休憩を確保し、有休も法定以上の取得状況となっています。週1回マッサージ師を招き、予約制で一定時間無料で施術を受けられる制度も好評です。離職率が低く、65歳以降の雇用の在り方の検討も進めています。コロナ禍で密が避けられる中、配置人数の多い集団内での情報共有や相互理解の促進が課題となっています。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

集団活動と並行して個々の成長に応じた対応を意識すること、保護者に寄り添いながら子育て支援を実施し母親力・父親力が育つ過程を見守ることを課題として取り組みました。特にコロナ禍の不安軽減のため、迅速に情報収集を行い、保護者に情報として伝えていくこととしました。職員配置を充実させ、個別対応には保健担当も個室等を使用して行い、個別対応も、個々の子どもの心情や家族環境、成長に応じて継続的に実施するようになりました。また、個性豊かな子どもたちへの対応のための知識として、積極的に「気になる子に対応するための研修」への参加を推奨し、個々の職員のスキル向上を図りました。それらの結果、職員は「個々を尊重しながら、生活面の分かりやすさや個々を認め合うにはどのような声かけをしたらよいか」を意識するようになり、乳児は集団を意識するより個々を優先に生活することができるようになってきました。幼児クラスは個々の個性を尊重しながら、子どもたちが主体的に運動会や生活発表会の内容を考え形にしていけることが、前年度以上にできるようになりました。成果を踏まえ、今年度も継続して見守りの度合い、子どもたち優位の主体性を活かす活動を取り入れることとしました。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

令和3年度は、取り組みの結果、子どもが理不尽な思いをして泣いたりパニックを起こすことがほぼゼロにまで減少したようです。また、主体的な動き(乳児は個々に午前中の間食時間を設定する。午睡時の自然起床後の間食。戸外へ行く際の準備。幼児は制作の創意工夫度や、自由遊び時間の過ごし方。戸外時の目標場所の設定等)もさらに積極的にになり、職員との信頼関係もより深くなったことや、待つことを職員が覚え、何度も同じ指示を出して子どもたちを誘導していく場面が減り、職員も穏やかに接する場面が多くなってきたこと等を成果として自己評価しています。今後は、年度ごとの取り組みの度合いの違いを意識した目標を設定し、取り組み内容や成果をより共有しやすい形にしていけることが期待されます。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、室内に保護者・見学者が入ることができない状況が続いていたことから、保育の「見える化」を進め、より開かれた保育園を目指すことを目標に、令和3年度は「写真で見せる保育風景」を実施しました。乳児各クラスにフリー職員が入り、通常の職員が関わっている自然な様子を撮影し、説明の文章を加えて、各クラスの保護者向けにホームページで公開しました。その際は、個人情報保護のためパスワードを設定しています。また、見学希望者には別途、0歳～5歳クラスまでの一日の様子を写真に撮りホームページで閲覧可能としました。こちらもパスワードを設定し、年間を通年で実施しました。目標は達成し、今年度は動画を配信するための準備をすることとしました。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

保育の見える化に向けた取り組みの結果、保護者や見学希望者(次年度の入園希望者他)に目で見て分かりやすく様子を伝えることができました。令和4年度は、保育風景を動画で撮影し、保護者に閲覧してもらうようにするなど、保護者に向けた保育ドキュメンテーション(子どもの様子を写真や動画、音声等で記録する手法)の取り組みも進めています。今後は、年度の重要課題・目標としてより明確に位置付け、継続的に取り組みを発展させていくことが期待されます。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	サブカテゴリ1の講評	
	<p>当園の情報は、リーフレットやホームページを通じて分かりやすく提供しています</p> <p>当園の情報は、リーフレットやホームページで提供しています。リーフレットには、園の目標、年齢別の定員と一日の流れ、保護者参加行事をはじめ、特徴的な活動として、病後児保育や、地域の0~3歳児までの親子が集う「あおむしひろば」を提供していることについて紹介しています。また、ホームページでは、活動の様子をブログとしてほぼ毎日更新し、園長からは、笑顔あふれる園を目指していること、子どもの生き生きとした動きや表情のほか、「こっこ(個々)」保育園の名前の由来となる「みんなちがってみんなすてき」のメッセージを伝えています。</p> <p>利用希望者が情報を入手しやすいように、行政や関係機関に情報を提供しています</p> <p>市役所には運営状況や活動の情報を定期的に提供しており、市内の子育てに関する情報誌「子育てのたまたま箱」には、園の保育方針や定員、保育時間、延長保育などをはじめ、子育て広場「あおむしひろば」について掲載しています。また、市が主催する未就園児を対象とした保育園等を紹介するイベントに際しては、園のパンフレットを提供するなど、利用希望者の情報入手に役立てています。なお、子育て広場については、地域向けの掲示により、開催予定日を周知し、お友だちづくりの活動についても継続的に広く発信しています。</p> <p>問い合わせや見学者には、園の特徴や様子について効率的な説明に努めています</p> <p>利用希望者等からの問い合わせや見学の案内は、主に園長が対応しています。見学は子どもの様子を見てもらうことを大事にしており、テラス(中庭)からガラス越しに部屋をのぞき見することができる環境があります。受け入れの時間や人数に制約がある中では、問い合わせ受付時に専用のパスコードを伝え、ホームページ上の保育風景の動画をあらかじめ閲覧することを依頼しています。また、本来は入園が決まった人に配布する「保育のしおり」を閲覧できるようにしたり、質問や問い合わせの多い事項への回答を用意しておくなど、効率的な説明に努めています。</p>	

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
◎あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
◎あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
◎あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
◎あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園面接や入園説明会で保育園の基本事項を説明し、保護者の同意を得ています 入園面接や4月初めに行う入園説明会で、保育園の生活に関する基本事項、保育計画、年間行事予定等について説明しています。「重要事項説明書」の資料を配布し、「保育のしおり」に沿って具体的なサービス内容、園での活動、必要な準備について伝えています。また、各家庭での協力が必要な生活の基本的なルールについては、動画でも配信することで理解を得ています。なお、個人情報の取り扱いのほか、アレルギーや熱性けいれんなど個別の配慮が必要な場合の対応等については、保護者から詳細について聞き取るとともに書面で同意を明確にしています。</p> <p>個別の状況の把握と慣れ保育の実施により、円滑なサービス開始につなげています 入園面接では、保護者の保育に関する希望や育ってほしい子どもの姿を聞き取り、変則的な就労状況など家庭の事情、家での子どもの呼び方、好きな遊び、入眠時の癖(体の向き等)などを記録しています。家庭での過ごし方を把握し、子どもが環境の変化に馴染めるように情報を活用しています。また、慣れ保育(短縮保育)の期間を約1週間設け、保護者と保育園生活の進め方について確認合っています。保育サービスの利用経験がある場合でも、数日は短縮保育で様子を見ることで、子どもの不安やストレスの少ない、円滑なサービスの開始につなげています。</p> <p>子どもの卒園・転園時にあたっては、様々な取り組みにより支援の継続に努めています 子どもの卒園・転園時には、継続的な支援につなぐ様々な取り組みを行っています。保護者と面談の機会を設け不安について記録し、了解を得た上で各種支援機関との連携を図っています。就学先の小学校と連携を図る例では、職員が小学校のイベント等を参観することもあります。また、卒園を機に変化する環境や支援のあり方に戸惑う状況を踏まえ、保護者がイメージしやすいように、就学後の生活について客観的な状況を伝えることも心がけています。卒園後も、立ち寄ることや相談を歓迎する旨を伝え、保育園とのつながりを継続できるよう配慮しています。</p>			

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
◎あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇●)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
◎あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
○あり ◎なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
◎あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
◎あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
◎あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリー3の講評	
<p>子ども一人ひとりの状況は、園内の共通書式に記録し、全職員で共有化しています</p> <p>入所時の子どもの状況は「新入園児面接表」、「入園児健康票」に面接担当職員が記入し、看護師、栄養士、調理員が確認した後、正規職員による保育会議や非常勤職員の有期会議で共有しています。欠席者には事務室に保管している議事録を読むことを義務化しています。また、更衣室にも掲示し、全職員が閲覧できるようにしています。0～2歳児は複写式の連絡帳を使用し、一人ひとりの心身の状況を把握しています。子どもの情報や課題は、個別ファイル(成長の記録)に整備し、成長過程に応じて0～2歳児は毎月、3～5歳児は期ごとに記録しています。</p> <p>保育の「全体的な計画」を踏まえて各指導計画を立案し、定期的に見直しています</p> <p>「全体的な計画」に基づき具体的な保育が適切に展開されるよう年間、月間の指導計画を立案し、日々の生活に即した週案、日案を作成しています。毎月の通信には計画に沿った前月の姿と今月のねらいを掲載し、保護者に配付しています。各指導計画はクラス別のファイルに整備し、計画は黒字、実施後の評価・改善は赤字や青字で記入するなど定期的に見直しています。0～2歳児及び個別配慮が必要な子どもには、生育歴、心身の発達、活動の実態に応じた個別計画を作成しています。今後に向け、個別計画を保護者に伝える仕組みづくりが期待されます。</p> <p>無線連絡やクラス別ノートを活用するなど、工夫して申し送り・引継ぎ等を行っています</p> <p>毎朝のミーティングの在り方を見直し、職員は参集せず、防災無線を活用して、園長より当日の予定や来訪者の連絡、クラス活動(散歩等)、給食(アレルギー対応等)の確認を行う方法としています。系列園とも合同で実施し、相互の運営状況や市内の感染症情報を共有しています。個別の家庭状況は、無線での周知は控え、ケース会議等で共有しています。各クラスに伝達ノートを設け、ミーティングでの情報や子どもの個別状況を記入し、出勤時に全職員が目を通す仕組みとしています。休み明けの職員は前ページから読み込み、適切な対応に努めています。</p>	
サブカテゴリー5	
5	<p>プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重</p> <p style="text-align: right;">サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5</p>
<p>評価項目1</p> <p>子どものプライバシー保護を徹底している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目
◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている
◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
<p>評価項目2</p> <p>サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
◎あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
◎あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリー5の講評	
<p>個人情報やプライバシーの保護、子どもの羞恥心に配慮した保育を進めています</p> <p>個人情報の使用に関しては、あらかじめ保護者に意向を確認しており、医療機関や支援機関など外部との子どもの情報の共有が必要な場合は、その都度保護者に伝えています。また、子どもに関する情報のやり取りは、一人ひとりに割り振ったマークで行い、園内の通信システムを使用する際にも、音が漏れることに配慮し、マークを使うことを徹底しています。また、外部から見えない場所へのプールの設置をはじめ、全裸にならない着替え手順の指導、プライベートゾーンの理解につながる絵本の読み聞かせなど、羞恥心に配慮した保育を進めています。</p> <p>子ども一人ひとりの気持ちを考えながら丁寧に関わることを大切に保育を行っています</p> <p>園として「一人ひとり(個々)を尊重すること」を大切にし、「全く同じ成長過程をたどる子はいない」ことへの理解を深めています。これら保育の方向性は、園長がことあるごとに職員に伝え、意識のあり方や必要な環境設定等について書面も配布しています。「子どもの人権擁護マニュアル」では、子どもに強制しない言葉や態度について確認し、ミーティングでは、ちょっとした言葉や仕草で子どもの気持ちを傷つけていないか、具体例を挙げて検討しています。さらに、傷つけるに至らないまでも不適切な関わりがないか等、細やかに指導を行っています。</p> <p>子どもや家庭の状況を把握し、他機関と連携を図り適切に支援する体制を整えています</p> <p>「虐待防止マニュアル」を活用し、職員の虐待への理解を深めています。また、外部の研修に参加して近隣での情報を得たり、園で何かあった際に市の担当窓口や子ども家庭支援センター等と連携する手順を確認しています。さらに、個性を理解し個々を生かす、きめ細かな保育を行うために充実した職員体制を整えている状況もあり、いわゆる育児困難家庭についても、関係機関と連携しながら受け入れるようになっています。職員は傾聴の姿勢を心がけ、把握した子どもや家庭の様子等について職員間での共有や検討を行い、適切な支援に努めています。</p>	

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5 / 5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
◎あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>園独自の詳細なマニュアルを作成・整備し、業務の標準化に向けて活用しています</p> <p>マニュアルとして、年齢による注意、保育安全、保健関係、給食関係、子どもの人権擁護、パンデミック対策等を作成しています。大事なことに ついて細かい動きまでイメージできるよう書き込み、例えば保育安全マニュアルは、①事故を未然に防ぐために、②保育者の心得、③日 常の環境整備、④こんな時どうしよう等の詳細な項目を備えています。マニュアルには担当者を割り振り、年度に一度は見直し、使わないも のは保管を見直すこともあります。なお、感染症のマニュアルなど短時間で書き換えられるものについては、最新情報の迅速な共有に努め ています。</p> <p>保育を進める考え方の統一と、手順の統一について、整理しながら取り組んでいます</p> <p>個々に応じた関わりを大事にする保育では、マニュアルや手順書に沿った一律の対応が当てはまらない場面が出てきます。そのような中 で、園が目指す保育を一定以上の水準に保つために、保育の方向性をはじめ、法人の基本理念及び園全体の事業内容について、説明を 行う機会を設け、掲げている理念や方針を、職員が深く、また多面的に理解することができるよう取り組んでいます。安全の確保や衛生の 管理など、手順の統一を徹底することが必要な部分との整理にも努めています。全職員への浸透には課題もみられ、継続的な取り組みが 必要となります。</p> <p>各会議での報告・伝達の確実性を図り、業務の一定水準を維持するようにしています</p> <p>保育の基本事項や手順に関しては、職員会議や保育会議、非常勤職員会議で保育の留意点等を確認しています。雇用形態や勤務時間の 違いに関わらず、決定事項の周知を図り、業務の一定水準の確保を図っています。クラスでの報告や会議記録の回覧、閲覧確認の仕組み があり、分からないことがあれば園長や主任、先輩職員に相談することを促しています。子どもや保護者の個性を踏まえつつ、園としての 統一感のある対応を可能にするためには、きめ細かな報告や伝達は欠かせません。その必要性について、全職員の認識をさらに深めるこ とが課題と言えます。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
◎あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
◎あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもが主体的に興味、関心を持って活動や遊びができるよう環境作りに努めています</p> <p>職員が子どもに遊具・玩具を提供し、使い終わったら片付けるという方法ではなく、玩具等は子どもの手に届く場所に置き、好きなときに好きな活動や遊びができる環境作りに努めています。室内空間を有効に活用し、天井にブランコやハンモックを吊るすスペースを設けたり、滑り台やマットでの体育遊びなど全身運動を取り入れ、様々に変化する子どもの気持ちや行動を受け止め援助しています。遊びの各コーナーを設定する際は、子どもが取り出しやすく片付けやすい玩具の並べ方や配置を工夫し、さらに集中して遊び込める環境を確保することが期待されます。</p> <p>集団保育の中で、特別な配慮が必要な子どもの伸びようとする力や意欲を育てています</p> <p>配慮が必要な子どもを援助するために、加配職員をはじめ、ゆとりある職員配置に努め、一人ひとりに応じた援助を行っています。椅子座布団にボールを入れ感覚を刺激したり、揺れる遊具を取り入れ固有覚を刺激したり、研修や専門家による巡回相談での助言を活かし肯定的な言葉かけを心がけています。「怒りそうになったら教えてね」と感情のコントロールを促し、制御できたときには目線を合わせて褒め、認めています。子どもの様子をよく見て状況を把握し、他の子どもたちと一緒に生活する環境で、共に学び合い成長できるよう配慮と工夫を重ねています。</p> <p>保育園と小学校教育との円滑な接続が図れるよう、交流・連携の取り組みを行っています</p> <p>小学校教育への接続が円滑に行われるよう、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、小学校教師との意見交換や連携に努めています。感染症予防の観点から、これまで実施していた5歳児の「一日入学」は見合わせていますが、校舎や校庭を見学するなど、可能な限り取り組んでいます。園生活を通して育まれる資質・能力を踏まえ、創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培い、子どもの育ちを支えるための資料「保育所児童保育要録」を入学先の小学校に届けています。就学に際し特別な配慮が必要な場合は、小学校との個別面接を行っています。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
◎あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
◎あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時に保護者とコミュニケーションを図り、子どもの健康状態等を確認しています</p> <p>感染症対策を徹底するため、登降園時の子どもの受け入れ・引き渡しは玄関ホールで行っています。登園時は健康状態を観察していつもと違うと感じた場合はその場で確認し、保護者から聞いた個別の連絡事項はクラス別の「引継ぎノート」に記入しています。当番職員から担任への申し送りには「引継ぎノート」を活用して職員間で共有しています。全年齢児一人一冊の連絡帳を設け、特に0～2歳児の連絡帳は複写式になっており、睡眠時間、排便回数、ミルクや食事の摂取量、遊びの様子、機嫌等、家庭との連携を図り、個々の生活リズムに配慮しています。</p> <p>個々の状態に配慮し、年齢ごとの成長・発達に応じて子どもの生活を援助しています</p> <p>0歳児の粉ミルクは、体調や成長に応じて個別のメーカーから園で購入しています。昼食は一人ひとりの生活リズムに合わせて時間に幅を持たせ、お腹がすいたタイミングで食べています。0歳児は個々のリズムで一日2～3回の睡眠をとり、1～5歳児は成長に合わせた午睡時間を保障しています。オムツ交換は使い捨てシートを使用し、2歳児は一人でパンツを履くための個別マットを用意しています。着脱は一方向的に着替えさせるのではなく、一緒に行くことを意識し、できない部分はやり方を伝え、自分でできた喜びを自信につなげ身に付くよう援助しています。</p> <p>降園時は限られた時間と空間の中で、子どもの状況を伝えられるよう工夫しています</p> <p>降園時は同じ時間帯に迎えが重なり、玄関前に長蛇の列ができたり密になることを防ぐために、日々の活動は写真やコメントで紙面に表し、保育の様子を可視化した「保育ドキュメンテーション」を掲示して伝えています。子ども同士のトラブルについては、園独自の「けが、かみつきカード」を活用し保護者に説明しています。「担任と話したい」という保護者の意向を受け止め、17:30以降のシフトに週2～3回担任を配置できるよう調整し、連絡帳や保育ドキュメンテーションに記載した以外のことを具体的に伝え、顔を合わせての対話を大切にしています。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
◎あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
◎あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがぎまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもの意思、主体性を尊重し、達成感を感じる経験を大切に保育活動を行っています</p> <p>日々の散歩は、子どものリクエストに応え、自分達で話し合って行き先を決め、公園に持って行きたい物を選び、縄跳びやボールを子ども用の散歩リュックに入れて持参しています。当番活動は、3歳児は毎日の朝の会で自分の名前を発表する経験から始め、4～5歳児は朝の会の司会、食事の挨拶、制作活動の材料をクラスの友達に配るなど、集団活動に主体的に関わっています。毎月の誕生会は、誰から誕生カードを受け取りたいかを誕生児に尋ね、希望に応じて開催しています。生活面では一斉にトイレに誘導することはなく、子どもの意思を尊重しています。</p> <p>季節や天気の変化を楽しみ、感じ取る日々の実体験が豊かな表現活動につながっています</p> <p>子どもたちは、散歩での青虫探しやダンゴムシ探し、野菜の栽培、クワガタやカブトムシの飼育など季節の変化を楽しみ、雨の日もレインコートを着て戸外に出て天気の変化を感じ取り、カタツムリを見つけています。実際に見て触れた体験が、手形を押してカニや魚を表現した壁面装飾、黄色いスイカの提灯飾り、ススキに野菜を添えた月見飾り等、豊かな表現活動につながっています。制作材料として、空箱、トイレトペーパーの芯、色画用紙、気泡緩衝材、カラービニール、シール、京花紙、不織布等を自由に選べる環境を整え、創作意欲を高めています。</p> <p>日常の遊びにルールのある遊びを多く取り入れ、決まりを守る大切さを知らせています</p> <p>制作活動の前には、ハサミの持ち方、座って使用すること、使い終わったらキャップするなど、安全な道具の使い方を子どもたちに分かりやすく伝えています。オセロ、ドッチボール、ドロケイなど決まりのある遊びを取り入れ、子ども同士でルールを教え合い遊び込んでいます。遊びを通して約束を守る大切さを知り、プール遊びでは「走らないで」と互いに声をかけています。同じ遊びを楽しむことで、友達の色んな姿に目を向けるようになり、面白だけでなく、思い通りにいかない難しさを感じながらも気持ちを調整し、関わりが深まるよう援助しています。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(○○○)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
◎あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は子どもの興味や関心、意見を取り入れて企画し、工夫して実施しています</p> <p>行事の在り方や目的について園全体で検討し、子どもの興味、関心、発達に即した参加の仕方を考えています。当日の雰囲気や圧迫されて動揺する0～1歳児の姿、2歳児のじっくり遊び込む力が3歳児以降の主体的な活動につながるなど、多角的な視点を持って実施しています。夏祭りは、お面、チョコバナナ、アイスクリーム、苺あめ、金魚すくいなどオリジナリティに富む作品を並べ、5歳児が担当する屋台に0～4歳児を招待しています。運動会は3～5歳児を対象に実施し(2歳児は自由参加)、5歳児が主導してタイトルや活動内容を話し合っています。</p> <p>子どもたちで話し合い、達成感を味わい、学び合える、主体性を育む行事となっています</p> <p>行事は当日の出来栄や成果よりも、取り組みの過程で得る子どもの自身の育ちを大切にしています。夏祭りの提灯作りは紙の色を選びデザインを考え、運動会の種目や役割分担を話し合い、生活発表会は劇の役役や楽器演奏など、様々な意見やアイデアによる試行錯誤が積み重なって、子どもたちが主体となり、協働的な学びの機会となっています。うまくいかない場合でも粘り強く取り組み、今すべきことを他者からの指示で行うのではなく、自分自身で考え行動できる子どもの姿を描いて見守り、子どもが困っているときには適切な援助を心がけています。</p> <p>子どもたちの頑張る姿を映像や書面で保護者に伝え、成長の喜びを共有しています</p> <p>行事に至るプロセスや見どころは、連絡帳や通信に記載して保護者に伝えていきます。保育ドキュメンテーションを通じて活動の様子や頑張る姿を知らせ、写真や掲示による保護者への情報提供が定着しています。感染症の観点から、保護者や地域の人を招くことが難しい親子参加の行事は、当日の映像を限定配信しています。生活発表会や卒園式の晴れ姿は系列園にも配信し、子どもたちの育ちに関わった多くの職員が保護者と共に成長を喜び合っています。懇談会は各クラスの様子を40分間の動画で限定配信するなど、保護者の理解を得るための工夫をしています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(○○)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもたちが一日を通して安心して過ごせるよう環境を工夫しています</p> <p>朝夕の時間帯は異年齢による合同保育を行い、遊びや生活の中で年上の子から刺激を受けたり、年下の子に思いやりを持って接する場面を大切にしています。少人数の子どもが安心して過ごせるよう温かい雰囲気を作り、朝夕保育専用の玩具を用意しています。また、通常の時間帯における保育との関連やバランスを視野に入れ、日頃のお気に入りや日中に楽しんだ玩具を持ち込み、継続して遊べる環境も整えています。特に低年齢児については、一人ひとりの疲れ具合や体調の変化等に気を配り、子どもが負担なく落ち着いて過ごせるように工夫しています。</p> <p>朝夕保育、延長保育など保育形態の異なる中で、一人ひとりの子どもに配慮しています</p> <p>7時から8時までの朝保育、8時30分から16時頃までのクラス別保育、18時から20時までの延長保育の中で、保護者の就労状況が異なる一人ひとりの子どもの情緒の安定に配慮しています。早番、遅番の担当職員を固定し、子どもの表情や言葉から子どものサインを読み取り、眠くなった子どもはいつでも横になれるスペースを確保しています。長時間保育を必要とする子どもの保護者との対応は、伝達漏れののないようけがの状況にアンダーラインを引いたノートを活用して説明し、伝え終えたらチェックを入れるなど、正確な情報伝達に努めています。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◎あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
◎あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子ども自身が食べる量を考え、楽しく食事ができる和やかな雰囲気を作っています</p> <p>給食業務、給食衛生管理、食中毒予防、アレルギー児対応等各種のマニュアルに基づき、安全・安心な給食を提供しています。楽しく食べることは、体と心を健康に保つ第一歩という考えを持ち、訪問調査日は「減らしてください」、「どれを減らしますか」など食事前の子どもと職員とのやり取りや、「たくさん食べてね」と子どもに声をかける職員の姿があり、どのクラスも残食は殆どありませんでした。子どもが無理せず食べられる量を伝え、おかわりも自由にでき、みんなで給食を食べる様子は、感染症に配慮した黙食であっても和やかに満ちていました。</p> <p>季節を感じる献立を考え、食文化や食物アレルギーに配慮した給食を提供しています</p> <p>季節を感じる献立を考え、お彼岸のおはぎ、終戦記念日のすいとん、郷土料理ののっぺい汁等を提供し、子どもに食文化を伝えています。料理名の由来(ビビンバのビビンは混ぜる、パはご飯)を栄養士がメモに記し、メニューの紹介時に職員が子どもに向けて読んでいます。夏まつり当日は「屋台風にしたい」という子どもの声に応え、プラスチック製の容器や紙コップに給食を盛り付けています。発達に合わせて食器を選び、1〜2歳児は滑らない皿、4〜5歳は陶器を使用しています。食物アレルギー対応の献立表を作成し、除去食や代替食を提供しています。</p> <p>夏野菜の栽培や食材に触れる機会を通して、子どもたちの食への関心を高めています</p> <p>毎日の献立は園のホームページで紹介し、栄養士のコメントを添えてブログに掲載しています。毎月の給食日より今月の食育活動を掲載し、ナス、きゅうり、大葉等の季節の野菜を栽培しています。収穫物は給食の食材として調理し、ミニトマトでトマトソースを作りピザトーストにして匂いを味わっています。5歳児は米研ぎ、4歳児以下はバナナ、グレープフルーツ、オレンジを洗ったり、トウモロコシの皮をむいたり食材に触れる機会を設けています。栄養士は、保育士が立案した食育計画に目を通し、ねらいや配慮事項を確認した上で実践しています。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
◎あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>健康や安全に関心を持てるような取り組みを進め、命を大切に子どもを育てています</p> <p>保健安全マニュアルや年間保健計画を基に、日常的に子どもの安全・保健指導に取り組んでいます。看護師と連携し、生活リズムを作ることや手洗い・うがい指導、暑さに対応できる身体作り、けがの予防を伝えるなど、生活習慣を整え、自分の身を守る力を高めていけるように支援しています。また「いのちの授業」として、人体模型を使ったり、実際に胎児の心音を聴くなど、一つしかないかけがえのない生命の不思議に触れる機会を設けています。健康や安全の大元となる、命の大切さを知り、自分のことも他の人のことも大事にできる子どもを育てています。</p> <p>医療的ケアが必要な子どもの情報は職員間で周知し、専門機関と連携して対応しています</p> <p>看護師が常駐するほか、同じ建物内に嘱託医が開業しており、体調不良やけが等について迅速に対応できる環境があります。アレルギーや疾病を持っている子どもについては、入園時に状況を確認し、医師の見解書を基に緊急時や与薬に対応できる体制を整えています。また、子どもの体調等に関する情報は職員間で確認し、個別の対応や特別な配慮が必要なケースに対応しています。子どもが安全に活動できるよう、専門機関との連携を図っており、補装具の着用がある場合、療法士等の助言等を得て、園内の動線や設備利用の注意点を確認している例もあります。</p> <p>感染症をはじめ健康作りに関する情報を、資料配布や掲示等で保護者に提供しています</p> <p>入園説明会では、重要事項説明書に沿って、感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)について、園と家庭の基本的な対応や役割を保護者に説明しています。また感染症の発生時には、注意喚起を含め具体的な対策を園内の掲示で伝えています。毎月の保健日よりでは、季節的に流行がみられる疾病等の情報、緊張や不安がもたらす体調不良への対処、健康や生活リズムに対する保護者の質問への回答等を掲載しています。子どもの健康の維持や増進のために、適切に情報を提供して相談体制を整えるなど、家庭との連携を図りながら取り組んでいます。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
◎あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
◎あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
◎あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>多様化する保護者の就労状況や個々の事情に合わせ、柔軟に対応することに努めています</p> <p>入園説明時や個人面談で、保護者の子育て状況や就労状況等を把握し、個々の事情に対応しています。在宅ワーク、変則的な勤務シフトなど、就業状況の多様化がみられる現在、保護者とコミュニケーションを図り、保育時間の考え方について認識を合わせながら、子どもを適切に受け入れる仕組みを整え、保護者の安心につなげています。園が子どもと保護者の最大の味方でありたい、という考えに基づく関係作りを進めており、利用者調査では、急な残業等への園の柔軟な対応について、該当する回答者全てが肯定的に捉える結果が得られています。</p> <p>保護者同士の交流機会を設けたり、保護者と園の育児や発達への共通認識を得ています</p> <p>保護者参加の行事(運動会・生活発表会等)や参観や懇談会で、保護者同士が交流する機会を設けています。行事を分散で開催したり、保育参観をオンライン化するなど、保護者が一堂に会する機会は以前に比べ限られています。懇談会では家庭での子育ての悩みを取り上げるなど、顔を見て話す機会を大事にしています。また、子どもの好きな遊び、玩具、仲間同士の関わり合いなどクラスの様子を伝えるほか、年齢に応じた心身の育ちの見通しを共有しています。さらに、健診前後の情報交換により、発達状況についてもタイミングを計って相談に応じています。</p> <p>相談の機会や各種情報の提供を通して、保護者の不安解消や養育力向上を図っています</p> <p>園では、保護者の困りごとや悩みは千差万別であると考え、傾聴の姿勢で受け止めることを大事にしています。保護者と共に考えたり、職員が模索したり、外部機関の専門的な助言を取り入れるなど、支援の在り方を検討し、保護者の不安解消につなげています。また毎月の通信で、各クラスの今月のねらいとエピソードを交えた先月の子どもの様子を詳しく伝えています。さらに、園の特色の一つでもある「主体性を重視する」方針について、保護者にも一緒に考えてもらえるよう子どもとのやりとりを例示するなど、養育力向上につながる取り組みも進めています。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
◎あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
<p>日常的に地域にお散歩に出掛け、地域の人に親しみを感じてもらい関係性を築いています</p> <p>地域に開かれた保育園になるよう、地域との関係性を築いています。保育園を身近に、気軽に感じてもらえるように、日常的に出かける散歩の際などには、職員は子どもと一緒に地域の人に笑顔で挨拶することを心がけています。一方、地域の商店街や自治会と継続的な関わりを大事にしてきた中で、近隣で開催するお祭りや餅つき等の行事は子どもが楽しく参加する機会となっていました。新型コロナ禍を受けて中止の状況が続いています。園では、これまでとはまた違う形で、園外を舞台とした子どもの体験を広げる可能性について模索したいと考えています。</p> <p>職場体験や保育体験を受け入れ、子どもが職員以外の人と交流する機会を設けています</p> <p>職員以外の人との交流の機会として、職業体験で受け入れている中学生との関わりがあります。子どもたちは大きいお兄さんやお姉さんに相手になって遊んでもらい、楽しんでいる様子は、保育ドキュメンテーションの記録として保護者にも伝えていきます。また、地域の子育てを支援する事業「あおむしひろば」を定期的に開催しています。地域の親子が園の行事に参加するなど、在園の子どもと一緒に活動する貴重な機会となっていますが、新型コロナ禍で開催を見合わせる時期を経て、現在はお散歩や公園遊びなど活動場所を屋外に限って再開しています。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル①	病後児等への保育体制が整っており、子どもの心身の健康と安定を図っています	
内容①	病気後の回復期にある子どもを受け入れる病後児保育を行っています。園で行う受診の判断、医師の判断による処置や投薬、日中の保護者から園への連絡など、保護者の基本的な意向を年度初めに確認し、利用ごとに体調の経過や症状を記した書類を提出する仕組みとしています。同じ建物内の嘱託医と密接な連携を図って、回復を促す保育を提供しています。子どもが何らかの理由でクラスの活動から距離を取りたい場合には、病後児保育室を活用する例もあるなど、充実した人的配置と設備の両面から、子どもの心身の健康と安定を図ることに力を入れています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	ICTシステムを積極的に導入し、保護者への連絡や職員間の情報共有を強化しています	
内容②	園長、給食、保健、事務、クラス別に専用のパソコンを各1台設置し、共通フォーマットによる指導計画の作成、発達記録、写真管理等を行っています。保育の様子を可視化したドキュメンテーションやブログは、パソコン操作に長けている職員から制作を開始し、多くの職員の習熟を図りました。タブレットを活用した午睡チェックを導入し、子どもの下着にセンサーを付け睡眠時の体位を記録しています。情報管理を徹底した上でソフトを使った発達チェック、保護者への一斉メール配信、登降園管理などICT化を推進し、職員間で園児の情報を共有しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル③	働き方改革の取り組みを様々に進め、良好な就業状況を確認しています	
内容③	1か月単位の変形労働時間制により柔軟な働き方を可能にするとともに、介護や通院、育児等の事情でも休みが取りやすいようフリーの職員を多く配置しています。園児とゆとりある心で接するためにも、保育から完全に離れて取る休憩時間を確保し、有休も法定以上の取得状況となっています。職員の誕生日には園からプレゼントを贈呈したり、毎週1回マッサージ師を招き、職員が予約制で一定時間無料で施術を受けられるようにするなど、充実した福利厚生制度を設けています。良好な就業状況により離職率は低く、定年後の雇用の在り方の検討も進めています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園全体へのゆとりある人員配置と職員間の連携により、個々の子どもたちを大切にしたい保育の理念・方針の浸透と実践に取り組んでいます
	内容	当園の園名は、個人を大切にしたいとの思いから「こっこ(個々)」と名付けられました。保育の理念に「一人ひとりの子どもの育ちを支える」を掲げ、方針には「自分で考えて行動する力、自己を表現する力を身につける」と謳っています。行政の基準を超えた、ゆとりある職員を園全体に配置し、行き届いた環境下で達成感を感じることを目標に保育を展開しています。子どもにどんな体験をさせたいか、発達に合っているか、楽しんでいるかに常に着目し、職員は持っている技術や知識を活かして連携し、生きる力につながる表現力や自己肯定感を育てています。
2	タイトル	栄養士と保育士が連携し、双方の専門性を発揮しながら、子どもの食事への配慮や支援につなげ、食育の取り組みを積極的に行っています
	内容	年間を3期に分けた食育計画を立案し、0歳児は月齢差や発達に配慮した個別の食育計画を作成しています。また、幼児食と離乳食の献立を作成し、食物アレルギーの子どもには食材表を毎月配付しています。月々の食育活動は保育士が考え、実施後の評価は栄養士がペンの色を変えて記入しています。卒園式前に保育士が把握した人気メニュー(カレー、ジャージャー麺、ナポリタン)をリクエスト献立として提供し、食事面での悩みを抱える保護者には、栄養士との個別面談を実施したり手紙を渡すなど、栄養士と保育士が連携し、双方の専門性を発揮しています。
3	タイトル	保護者との密接なコミュニケーションを通じて園の活動への理解を深め、各家庭の事情に配慮しながら共に子どもの育ちを支えています
	内容	保護者との信頼関係を築き、子どもの成長を共に喜ぶことを大切にしています。降園の時間をみながら、担任が対応できるように調整したり、オンライン参観を取り入れたり、日中の活動を写真に臨場感のあるメッセージを添えたドキュメントとして園内に掲示するなどしています。また、園が大事にする「子どもの主体性を重視する」ことについて、通信の中で具体例を交えて伝えるなど、園の活動への理解を得る取り組みを進めています。保護者の不安や悩みには「子どもと保護者の最大の味方」という立場で傾聴の姿勢で応じ、共に子どもの育ちを支えています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	中・長期計画の課題を着実に、段階的に解決していくために、実施スケジュール等を明示して進捗と成果を共有していくことが期待されます
	内容	毎年度、保育の理念や方針、地域の現状、中・長期計画、事務・業務や会議、係、行事の枠組み、職員の心構え等をまとめた保育事業内容を作成し、職員会議において全職員に説明し、将来の方向性を含めた課題への取り組みを周知しています。保育活動や行事の予定は年間計画に具体化し、年度末には事業報告に実績や総評をまとめていますが、さらに各種の課題に着実に取り組み、段階的に解決していくために、中・長期計画と年間計画を連動させ、数値目標や改善課題への取り組みのスケジュール等を明示して、進捗と成果を共有していくことが期待されます。
2	タイトル	子どもの遊びの発達を援助する玩具・遊具等が設置された複数のコーナー作りなど、室内環境のさらなる充実に向けた工夫が期待されます
	内容	遊具や玩具は子どもの手に届く場所に置き、好きなときに好きな活動や遊びができる環境を作り、子どもたちの主体的な活動を大切にしています。今後は、保育ドキュメンテーションの写真や子どもの言葉を参考に、翌日以降の環境構成の見直しについて話し合い、コーナー設定のさらなる充実につなげることが望まれます。例えば、1つの箱にまとめて片付けているままごと道具は、食器棚に並べてより家庭的な雰囲気にならしたり、見立て遊びでは、フェルトや毛糸で手作りの具材を揃えて料理を楽しむなど、創造性を高め、遊びを発展させる工夫が期待されます。
3	タイトル	理念浸透への取り組みを継続するとともに、多様な職員の相互理解を進め、より高いレベルでの業務標準化を図っていくことが期待されます
	内容	個々に応じた関わりを大切にしたい保育を一定水準以上に保てるよう、保育の方向性をはじめ園全体の事業内容の説明を行う機会を設け、手厚い職員配置と良好な労働環境を確保して、職員が深く理解し行動できるよう取り組んでいます。安全や衛生の管理など全体の手順の統一・徹底が必要な部分との整理にも努めています。しかし、自己評価では浸透し切れていない様子もみられました。取り組みを継続するとともに、多様な職員の相互理解に向けて経営・リーダー層の権限や責任を明確化するなど、より高いレベルでの業務標準化を図っていくことが期待されます。